

小型シリンジポンプ STC-531 の使用経験

シリンジポンプは手軽で大変便利な器械であり、より安定したキメ細かい患者管理を可能にした。特に手術室、ICU、RCUなどにおける役割は大きく、もはや無くしてはならない存在といえよう。今回筆者らは、テルモ社製小型シリンジポンプ STC-531を使用する機会を得たので紹介する。

1. 外観

大きさは、幅 182mm、奥行 72mm、高さ 35mmで同社の 5mlと10mlの2種類のシリンジを使用することができる。駆動電源は通常電源と内蔵バッテリーで、いずれにしても本器専用の充電器が必要である。この充電器はかなり大きい。1.5時間の充電で24時間以上の使用に耐える。本体の重さは約300gである。

表示部はアラームも含め、すべて液晶であるがバックライトはない。注入量から作動状況までひと目でわかるように配列されている。また、誤って操作パネルやシリンジに触れることのないよう、透明な大型カバーがつけられている。

2. 操作性

従来なじみの深い同社の前モデル STC-521と操作パネルはほぼ同様のデザインとなっており、初めて操作する場合も違和感はないと思われる。

シリンジと各種カテーテルをつなぐ窓が大きく開けられているため、たとえば硬膜外カテーテルのフィルターでも直接接続することができる。これはあたりまえのようであるが他の機種にはない特徴である。

注入量設定範囲は、0.05~30ml/h (5mlシリンジ) 0.05~60ml/h (10mlシリンジ) で、10ml/hまでは0.05ml/hステップ、それ以上は0.1ml/hステップというようにプログラムされている。ロールアップ、ダウンで注入量を選択する。従来型のような各桁ごとの入力ではないので、設定にはやや時間を要する。初期設定用のメモリーを1つ装備している。

3. オプション

小型、軽量である特徴を活かし、患者携帯用のバッグが用意されている。肩から吊り下げ、さらに腰部にベルトで固定できるようになっている。

もうひとつ、ベッドサイドでの固定を目的とした固定器（ポールクランパー）がある。本体裏面の穴に合わせてネジで止める設計だが、たとえば高齢者が使用する場合を想定すると操作がやや繁雑と思われる。ワンタッチで脱着できるような固定器が欲しい。

シリンジポンプの有用性については、すでに冒頭でも触れた。しかし一歩進んで術後を含めた各種疼痛対策など、装着したままの早期離床を考えるとどうしても小型、軽量化が望まれるところである。

微量注入ポンプはすでに数社から市販されているが、特殊なシリンジやリザーバーが必要でランニングコストが実情に合わないという問題があった。また小型すぎてインシュリンの注入など、限られた目的にしか使用できない機種もある。その点、STC-531は一般のシリンジがそのまま使用でき、注入量設定範囲も幅広い。したがって静脈内、皮下、硬膜外いずれの持続注入も無理なく施行できる。従来型のように手術室などでの使用にも十分対応できるうえに、本体自体は患者の携帯に便利のように設計されている。今後、各種薬剤の持続注入法確立にともない、本器のような小型シリンジポンプの利用は、ますます広がっていくものと思われる。

東京共済病院 麻酔科
畠中 節夫

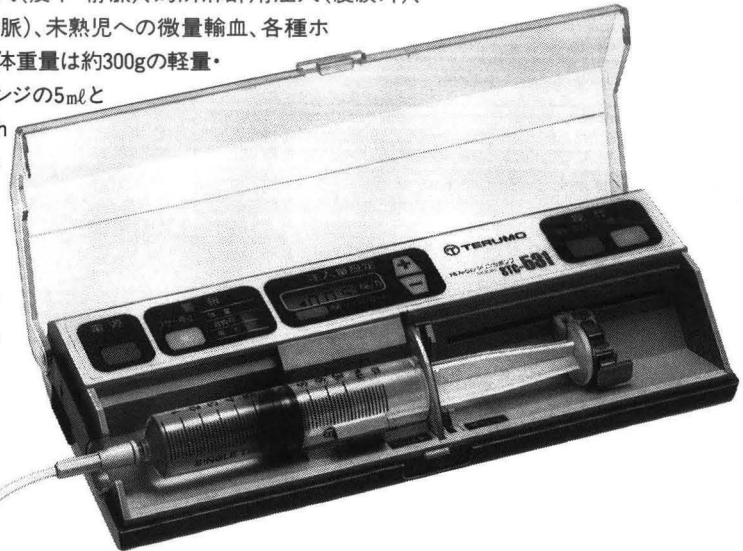
携帯可能な高性能シリンジポンプです。

——薬液投与の多様化に対応します——



テルフュージョンシリンジポンプSTC-531は、軽量でコンパクト設計。携帯時にも使用できます。10mlと5mlのシリンジを適用でき、注入量の設定範囲は0.05~60ml/h(10mlシリンジ使用時)と広く、長時間の持続注入とワンショット的な注入の使い分けが可能です。このため、様々な臨床分野に適用でき、薬液投与の新しい可能性を拓きます。

●使用分野: 鎮痛剤持続注入(皮下・静脈)、局所麻酔剤注入(硬膜外)、
抗悪性腫瘍剤注入(動脈・静脈)、未熟児への微量輸血、各種ホル
モン剤持続注入など。●本体重量は約300gの軽量・
コンパクト設計。●テルモシリンジの5mlと
10mlを使用。●0.05~60ml/h
(10mlシリンジ使用時)と広い
注入量設定範囲。●±1%の
流量精度。●表示やブザー
で知らせる警報機能。●約1.5
時間の急速充電方式。●ワン
ショット的に使える早送り機能。



テルフュージョン® シリンジポンプ 型式 STC-531